

平成27年産さくらんぼ作柄調査結果

平成27年5月27日
山形県さくらんぼ作柄調査委員会

1 調査期日 平成27年5月25日（月）

2 調査場所 県内主要産地48園地

3 調査結果

花束状短果枝当たりの着果数は1.7果となっており、前年の2.1果よりは少ないですが、ほぼ平年並みとなっております。

今年は、生育が早い地域や生育が早い品種で4月9日の降霜による雌しべの枯死が発生し、着果数が極端に少ない園地も見られるなど、地域や園地による着果量の差が大きい状況となっております。

4 作柄概況

(1) 収穫量の予測

作柄調査の結果等を受けて、山形県さくらんぼ作柄調査委員会で検討したところ、現時点で、収穫量は13,400t程度と予想され、作柄の良かった前年の92.4%、平年との比較では99.3%となり、「平年並み」と見込まれます。

【前年収穫量】14,500t 【平年収穫量】13,500t(過去10年間のうち最大と最小を除いた8カ年の平均値)
※作柄は平年収穫量との比較で次の5段階に区分する。「多い」:115%以上、「やや多い」:105%以上 115%未満、「平年並」:95%以上 105%未満、「やや少ない」:85%以上 95%未満、「少ない」:85%未満

(2) 収穫期の見込み

- ①「佐藤錦」の収穫は、6月中旬頃から始まり、収穫盛期は、前年より3～4日程度早い6月19日～22日頃と予測されます。
- ②「紅秀峰」の収穫は、6月下旬頃から始まり、収穫盛期は、前年より3～4日程度早い6月28日～7月2日頃と予測されます。

5 今後の対応等

調査結果を踏まえ、着果が多い園地における摘果作業の実施や、適切な着色管理、土壌の乾きに応じた灌水、適期の雨よけ被覆など、高品質生産に向けて指導を徹底してまいります。

なお、今後、気象災害等作柄に大きな変化がある場合には、補完調査を実施し、逐次お知らせします。

〈参考〉「花束状短果枝（かそくじょうたんかし）当たりの着果数」について



「花束状短果枝」＝花が咲いて実がなる極短い枝のこと。

花の時期にはこの短い枝が花の束に見えるため「花束状短果枝」と呼びます。この図では3つの花束状短果枝に合計6個の実がなっているので平均着果数は2果となります。